

Q & A



皆様の質問にお答えします

Q いつから本格的な工事が始まるのですか？

A. 平成16年の前半には、調査・設計を完了し、その後、各方面との協議・調査を行った後、工事着工する予定です。

Q ジャケット式栈橋の優れているところは何か？

A. ジャケット式栈橋は、主な構造体を工場で作製するため、現場作業が少ないのが特徴です。従来の栈橋形式に比べて、鋼材をトラス状に組むため、剛性が大きく、杭の本数を減らすことができます。また、比較的深い水深のところでも施工が可能です。

Q 重力式岸壁の優れているところは何か？

A. 重力式岸壁は、ケーソン等とその土台となる石のマウンド等で構成されているものです。ケーソン等の構造物の背面を埋め立てますので、船舶の接岸等、横からの力に対して強い構造です。比較的水深が浅い場合に一般的に用いられます。

西郷港写真館

～ 昨年の港の風景 ～



昨年も西郷港周辺では様々な催しが行われ、多くの人でにぎわいました。



おーい、ニッポン(6月1日)
「おーい、ニッポン～今日とはことん島根県(NHK-BS放送)」では、西郷港が全国で紹介されました。

結婚式(11月28日)
西郷港メガフロートを会場に結婚式が行われました。出航するフェリーは汽笛で2人の門出を祝いました。



朝市(11月28日)
結婚式と同じ日に、島内の特産物を集めた朝市が開かれ、多くの人で賑わいました。



本事業に関するご意見やご要望など
ございましたら、お寄せください

島根県隠岐支庁土木建築局
〒685-8601 島根県隠岐郡西郷町大字港町字塩口24
工務第2課港湾係
TEL 08512 2-9749
FAX 08512 2-9760

みなとニュース

西郷港港湾改修事業に関する情報をお伝えします

浮体式栈橋とターミナルをつなぐ通路及びエレベーター棟が完成し、ボーリング調査時にフェリーを移設しました



新しい岸壁の構造形式の概要がまとまりましたので、お知らせします

西郷港港湾改修事業は、大型船に対応するためのふ頭機能の強化、大規模地震災害等の緊急物資輸送基地としての機能確保、施設利用のためのふ頭用地の確保を目的に平成11年度より事業を行っているところです。

平成15年度は、4月から5月の間、フェリーターミナルから仮設浮栈橋への横断歩道橋及び、旅客用通路の整備を行い、続いて6月から7月にかけては、フェリーを仮設岸壁に移して本岸壁付近のボーリング調査を行いました。

この調査の結果に基づき今回計画している岸壁の設計を進めてまいりましたが、このたびその形式が概ね決まりましたのでお知らせします。

なお、今後、2月中旬からの海底調査をふまえ、詳細な設計を進めてまいります。

新しい岸壁(本岸壁)の構造を紹介します



構造 1 ジャケット式棧橋

このあたりには、基岩(基礎地盤を構成する岩石)が浅いところにあるため、基礎地盤までしっかり杭を打ち込み、支持力を得ることができます。そのため、ジャケット、上部コンクリート板等で構成する「ジャケット式棧橋」の採用を考えています。

先に施工した航送車輛待機部

構造 2 重力式岸壁

このあたりは、基岩が深く、杭を打ち込むことが非常に難しい区間です。

そのため、ケーソンを土台の上に据え付け、その重さによってしっかり支える「重力式岸壁」の採用を考えています。

新しい岸壁について説明します



形式選定にあたっては、基礎地盤の状況、工事の施工性、経済性等を総合的に判断し、「ジャケット式棧橋」と「重力式岸壁」の工法に決定します。

ただし、岸壁付近の地盤が複雑であることから詳細な調査が必要となり、2月中旬から1ヶ月程度行う予定です。最終的に詳細な構造が決定するには、もうしばらく時間を要します。

整備目的

西郷港は、隠岐島島後地区における物流・人流の拠点として新しく生まれ変わります

本港においては、近年、フェリーふ頭の老朽化や用地の不足により、港湾機能に支障が生じています。また、貨物量の増大や乗降客の増加に伴い、より大型の船舶の就航が期待されています。そのため、隠岐島後における物流・人流の拠点として、大型船舶に対応するためのふ頭機能の強化、大規模地震災害時の緊急物資輸送基地としての機能確保、施設利用のためのふ頭の確保を目的に、港湾整備を行っています。

この整備を通じて、地域の交流と産業の発展に寄与することが期待されています。

整備計画

岸壁施設の配置計画は、基本的には以下のように考えております



ふ頭用地の具体的な利用については、現在検討中です。

岸壁部分の横断図

